

授業科目名	在宅看護学臨地実習	担当教員	栗栖千幸
必修	開講年次：3年後期	単位：2単位	授業形態：臨地実習 90時間

【授業概要】

在宅看護学の対象となる慢性的な健康問題を持ち在宅で生活するあらゆる年齢層の療養者及びその家族と意思疎通をはかり、療養者と家族の想いを受け止め、生活を支援する保健・医療・福祉サービスにおける連携の実態と看護師の役割を理解する。加えて、在宅にて医療的ケアが必要な療養者・家族を支援する看護実践にもとめられる知識と技術の修得をはかる。

【授業目的・目標】

1. 療養者及び家族と意思疎通をはかれる。
2. 療養者及び家族の想いと生活状況を表現できる。
3. 在宅療養者への訪問および通所サービスにおける看護実践の一部を指導下で体験する。
4. 医療機関における保健・医療・福祉の連携部門を見学実習する。
5. 在宅における看護師の役割を表現できる。
6. 専門職にふさわしい行動がとれる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」、「在宅看護学Ⅰ・Ⅱ」を修得していること。

【授業計画】

- 実習1日目：（午前：学内）オリエンテーション（午後：施設実習）実習準備
 実習2日目：（施設実習）訪問看護オリエンテーション・訪問予定者の情報収集
 実習3～4日目、7～8日目：（施設実習）訪問看護実習
 実習5日目：（施設実習）医療連携実習 実習6日目：（学内）医療連携実習カンファレンス（学内）
 実習9日目：（施設実習）訪問看護ステーション：訪問看護実習カンファレンス
 実習10日目：（学内）学習のまとめ・評価

【教科書】

在宅看護学Ⅰで使用した参考書、資料

【参考書】

在宅看護学Ⅰで使用した参考書、資料

【評価方法・評価基準】

実習記録、カンファレンス、実習指導者評価などをもとに実習目標への到達度を総合的に評価する。

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：在宅看護学Ⅰで学習した医療保険と介護保険による訪問看護及び課題資料を復習しておく。

事後学習：訪問看護事例の情報を整理する。訪問看護実習及び医療福祉連携実習における自己の学習目標に対する目標達成状況を記載する。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅸ. あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習記録は、全領域実習が終了した時点（3年後期又は4年前期）に学生個人に返却する。

【備考】

在宅看護学Ⅰにおける非常勤講師による支援の実際に関する講義、および演習「訪問看護疑似体験」「訪問看護における情報収集」について理解しておく。